

氏名	杉 本 正 治
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1847 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和62年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	Effects of Afferent Stimulation of the Lingual Nerve on Gastrointestinal Motility in the Rat (ラットの胃腸運動に対する舌神経の求心性刺激効果)
論 文 審 査 委 員	教授 堀 泰雄 教授 辻 孝夫 教授 川村光毅

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ラットにおいて、舌神経の求心性刺激の胃腸運動におよぼす効果とその反射経路について検討をおこなった。

舌神経の求心性刺激は胃、十二指腸、近側結腸に亢進、抑制および2相性効果を誘起した。これらの効果は両側迷走神経の切断後では残ったが、両側大内臓神経の追加、切断あるいは第4胸髄と第5胸髄の間での脊髄の追加切断によって消失した。この亢進、抑制および2相性効果は除脳によっても影響を受けなかった。またこれらの3種類の効果はアトロピンとグアナチジンの同時投与によって、大多数の例で消失したが数例において、胃、十二指腸にわずかに抑制効果が残った。これは壁内の非アドレナリン性抑制ニューロンの活動によると推量される。また上述の結果から、舌神経の求心性刺激による反射性亢進、抑制および2相性効果を誘起する反射中枢は迷走神経背側核にあり、その反射性遠心路は迷走神経と大内臓神経であると推論された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文はラット舌神経の求心性刺激により誘発される胃・十二指腸・近位結腸運動の亢進ならびに抑制、あるいは亢進・抑制の二相性変化につき、その反射中枢は迷走神経背側核にあり、遠心路は迷走神経と大内臓神経であることを明らかにしたものであり、消化生理学に新知見をもたらした。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認められる。